

平成 21 年 5 月 25 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 タ カ ラ ト ミ ー
代 表 者 名 代表取締役社長 富山幹太郎
(コード番号 7867 東証第 1 部)

問い合わせ先 執行役員管理本部長 田島 省二
T E L 03-5654-1548

丸の内キャピタルとの戦略的資本・事業提携に関するお知らせ

当社は、本日開催された取締役会において、三菱商事株式会社（以下「三菱商事」という。）と株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ（以下「MUFG」という。）傘下の三菱 UFJ 証券株式会社（以下「三菱 UFJ 証券」という。）が共同で設立した投資ファンド運営会社である丸の内キャピタル株式会社（以下「丸の内キャピタル」という。本社：東京都千代田区）との間で、戦略的資本・事業提携を行うことを決議いたしましたのでお知らせいたします。

1. 資本・事業提携の経緯、目的

玩具業界においては、消費者嗜好の多様化、少子化等を受けて厳しい状況の中、昨今の米国におけるサブプライムローン問題に端を発した金融不安による世界経済の急激な悪化により、個人消費が更に冷え込むこととなり、一層厳しい市場環境・競争環境にさらされております。

このような環境下、当社グループでは、中核の国内玩具事業の更なる強化を中心として、玩具周辺事業の再編、当社オリジナルコンテンツのテレビ放映、中国・韓国におけるグローバル展開の本格化、ベトナム工場の立ち上げなどを含む生産基盤や品質管理体制の強化など、諸施策を進めてまいりました。

当社は、さらに強固な経営基盤を構築し、これまでのビジネスモデルをグローバルに展開していくためには、当業界に理解と知見のある企業との強固な連携を進め、資本政策の再構築による株主構成の安定化と、グローバル企業に期待されるコーポレート・ガバナンスの向上に向けた取り組みが必要であると考えています。

そこで当社は、平成 19 年 3 月以降、米国の大手プライベート・エクイティ投資会社である TPG（本社：米国サンフランシスコ）との間で、企業価値向上を目指した戦略的資本・事業提携関係を構築して参りましたが、今般、かかる TPG との間の提携関係を維持しつつ、新たに丸の内キャピタルに対し、三菱商事グループ及び MUFG が保有する事業ネットワーク・経営ノウハウを活用した事業的側面からのサポート、並びに日本を代表する企業グループの一員として連結経営ノウハウを有する投資ファンドからの役員派遣によるコーポレート・ガバナンスの向上、及び当該ファンドからの友好的かつ安定的な資本の導入を要請し、戦略的資本・事業提携を行うことといたしました。この資本提携の具体的実施のため、当社の自己株式（後記 2. 記載の自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）により当社が新たに取得する自己株式を含みます。）を丸の内キャピタルの運営するファンドである丸の内キャピタル第一号投資事業有限責任組合に処分することといたしました。

丸の内キャピタルは、安定的かつ友好的に投資先の株式を保有し、企業価値向上施策として三菱商事グループが有する事業ネットワーク・ノウハウや MUFG の金融ソリューション力等を幅広く活用することができる投資ファンド運営会社として昨年 4 月に設立され、投資スタンスとして、投資先

と強く安定的な信頼関係を築き、潜在的な価値や力を実現することを掲げております。

この度の提携を通じて、当社の課題の一つである連結ベースの経営を強化することにより、中核となる玩具事業の更なる強化、玩具周辺事業の再生・競争力強化による収益力向上に加え、当社が進めるコンテンツ事業の推進及びグローバル展開による成長戦略がさらに加速できるものと確信しています。また、丸の内キャピタルとの提携関係の構築は、当社と TPG との間でも十分な協議を経たものであり、TPG の積極的な評価を受け、当社として今回の合意に至ったものです。従いまして、今後当社は、TPG と丸の内キャピタルという、米国大手のプライベート・エクイティ投資会社と、日本を代表する企業グループに属する投資ファンドの両者からそれぞれの特色を生かした戦略的アドバイスを受け、両者の協力の下に、事業を推進していくこととなります。

なお、コンテンツ事業においては、これまでも丸の内キャピタルの株主である三菱商事の 100%出資子会社 株式会社ディーライツ（以下「ディーライツ」という。）との協業により、現代版ベーマ「ベイブレード」などアニメ番組と連動した玩具販売を世界 70 カ国以上で展開し大きな成功を収めた実績をもっており、今後も、当社が有する豊富なコンテンツを連結グループ各社の持つ強みを活かしてさらに有効に活用できるものと考えております。また、グローバル展開においては、その重点地域であるアジア地域において、当社は既に着実なビジネス展開の礎を築きつつありますが、今後、継続的に成長・拡大するために、三菱商事グループ及び MUFG の有する幅広いネットワークを活用し、アジア地域はもとより、全世界において一層のプレゼンスの拡大を図る所存であります。

2. 資本提携の概要

当社は、丸の内キャピタルの運営するファンド「丸の内キャピタル第一号投資事業有限責任組合」に対し、当社が保有する当社普通株式（当社が明日実施する自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）により取得する予定の自己株式を含みます。）14,443,700 株を処分し、丸の内キャピタル第一号投資事業有限責任組合はこれを取得する予定であり、当該株式数は平成 21 年 3 月 31 日現在の発行済株式数（自己株式を含みます。）の約 15%に当たります。なお、本提携は、当社が自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）により、9,629,000 株以上の自己株式を取得することを条件としております。

3. 資本提携の日程

平成 21 年 5 月 25 日	資本提携に関する契約書の締結
平成 21 年 5 月 25 日	自己株式取得取締役会決議
平成 21 年 5 月 25 日	自己株式の処分に関する取締役会決議
平成 21 年 5 月 26 日	自己株式の取得
平成 21 年 6 月 10 日	自己株式処分の払込期日

4. 事業提携の概要

今回の戦略的資本・事業提携に際し、TPG との間におけるのと同様、丸の内キャピタルとの強固なパートナーシップの構築と、連結ベースのコーポレート・ガバナンスの向上に資することを目的として、丸の内キャピタルに 2 名の役員の派遣を要請しております。（なお、取締役の員数に係る定款変更の予定はございません。）

丸の内キャピタルとの提携により連結経営が強化されることは、以下に掲げる事業提携の効果をより一層高めるものであると考えております。なお、今後、両者は包括的に事業への取組みを協議してまいります。

(1) 国内玩具、玩具周辺事業及びコンテンツ事業の強化

国内玩具事業における商品ポートフォリオ及び開発製造プロセスの見直し等を含めたコスト競争力の強化、玩具周辺事業においては不振事業の早急な立て直しと個別事業の競争力向上による収益力改善等の既存の取組みを強化することを企図しております。加えて、新たな収益の柱としてのコンテンツ事業を強化するため、三菱商事グループのディールライツとのこれまでの協業の経験を活かし、当社が保有するオリジナルキャラクター、ゲームなどを活用したエンターテインメント・コンテンツのプロデュースによる事業拡大に国内外において積極的に取り組みます。

(2) グローバル展開への取組み

玩具及び玩具周辺事業においては、三菱商事グループ及び MUFG の海外における幅広いネットワークを活用し、今後成長が期待されるアジア地域におけるプレゼンスの拡大に取り組みます。

5. 今後の見通し

本件の実施が当社及び当社グループの業績に与える影響につきましては、平成 21 年 11 月公表予定の第 2 四半期決算においてお知らせする予定であります。

6. 丸の内キャピタルの概要

丸の内キャピタルは、三菱商事における金融事業強化と株式会社三菱東京 UFJ 銀行及び三菱 UFJ 証券における CIB ビジネス (CIB : Corporate & Investment Banking) の一層の推進のために 2008 年 4 月に設立された投資ファンド運営会社です。

項目	内容
商号	丸の内キャピタル株式会社
代表	代表取締役会長 宇野 節生 代表取締役社長 矢坂 修 代表取締役副社長 山田 計介
所在地	東京都千代田区丸の内 1-3-1 東京銀行協会ビル 9 階
資本金	5 億円
株主構成	三菱商事株式会社 50% 三菱 UFJ 証券株式会社 50%
設立年月日	平成 20 年 4 月 1 日

7. 株式等取得者の概要

丸の内キャピタルの運営する下記のファンドが、本件において当社の株式の取得を行います。

- (1) 名称 : 丸の内キャピタル第一号投資事業有限責任組合
- (2) 本店所在地 : 東京都千代田区丸の内 1-3-1 東京銀行協会ビル 9 階
- (3) 無限責任組員 : 丸の内キャピタル株式会社
- (4) 有限責任組員 : 三菱商事株式会社、株式会社三菱東京 UFJ 銀行、MUS プリンシパル・インベストメンツ株式会社 (三菱 UFJ 証券株式会社の 100%子会社)
- (5) 当社との関係 : なし

以 上